

ボスター、壁新聞、ニユース、指令等々、吾等が出版物を見ては驚大なる教育的
價値をもつものであり、又、またたけぬはならぬものだが、その價値は内容の選
擇と表現の方法とによつて定まる。

大体に於て、現在までの吾等の間に於ける出版物の第一の缺点是、讀むものを
本位として書かれて居ないことであつた。吾等を代へて言へば、讀者に解らうと
解るまいと、筆者の智識が見せがらからせておれば、それでよい事になつてゐた。
労働組合が統制し得る出版物の範圍に於ては今後この弊を排し、出版物による
教育の合理化を断行しなければならぬ。その方法を一つとして、組合の出版部に
労働者檢關係とでも言つた委員を置き、重要な出版物の採擇はその内容を受け
しめることである。

三、集會教育を左の如く分類する

1、労働學校 學校は組合員計りでなく、組合員、労働者にも入學の機會を
與へなければならぬ。一般的に公開するが故に學校の質が低下すると心
配することは無用だ。何故ならば學校は、相當長所に亘る努力と授業料を
生徒から要求するものであるによつて、熱心でなければ誰も入學する氣に
なれないからである。

學校の目的は、一般社會に對する基礎智識をプロレタリア階級の立場

ら與へて、現在の經濟組織、政治機構其の他一切の社會的現象に對し、
將來學生自ら批判を下し得る能力を持たせらるにある。従つて、そこに於
ける教授法は組織的であつて、學生の理解力の高揚に連れて、淺きより深
きに及ぶものでなければならぬ。單に幾個かの科目を並列して、其の
間に何等の組織的統一なき、百貨店式の智識の安賣りは駄目だ。科目の
選擇と、その体系的配列とは重要である。

それに關聯して、教師の選擇も學校の致命の問題の一つである。教師
は充分の智識を蓄へておかなければならぬ事は當然だが、それより肝心
なことは、その看の階級意識である。同一事柄と言へども、それに對す
る觀方の相違(階級意識の相違)によつて意義が全く相反する場合が多
い。學校の目的が批判能力を學生に與へ、彼等の意識を高揚せしめるに
ある以上は、教師の意識がその指導に堪えるものでなくてはならない。
大体に於て労働學校の教師は、階級階級出身者で、永らく労働運動の實
際に携はり、經歷に於て階級的裏切り行為のなかつたものであるならば
間違ひはない。辯舌の巧みは第二次的問題である。

學校の管理者は單なる事務取扱ひ或は看板であつてはならぬ。學校の
全体的効果如何は、彼の管理振りの上に係ること甚だ大なるものがある。